

近畿地区高等学校国際教育研究協議会主催

## 第46回近畿ブロック高校生国際交流セミナーに参加しました！

【参加生徒】 3-6 出口健太  
1-6 稲葉陽祐 岡佳亮 北出敦寛  
中村壮太 吉村晃

【場所】 ピアザ淡海  
(滋賀県立県民交流センター)  
滋賀県大津市



十二月二十四日(日)、滋賀県大津市で開催された第46回近畿ブロック高校生国際交流セミナーに、本校生徒6名が参加しました。道の所々に積雪が見られるような寒さ厳しいクリスマススイブでしたが、御坊駅を早朝出発し会場に到着すると、そこは熱気に溢れていました。

午前は羽衣国際大学教授で落語家のにしやんた氏による基調講演が行われ、あらゆる違いとどう付き合うか、共笑(ともえ)の考え方、また多様性と包摂・社会参画の必要性について教わりました。午後は交流会の後、聖泉大学の森雄二郎氏による

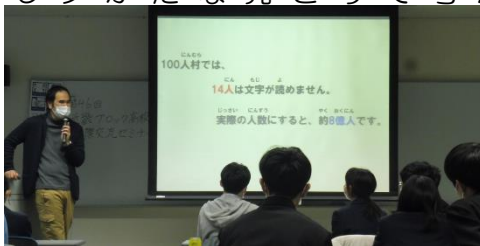
ワークショップが行われ、他校生たちと共に異文化共生や持続可能な社会の創造について楽しく学びました。

### 【参加生徒による感想】

国際交流と聞くと、英語を話すのかなと思いついていたのですが、そうではなく、異文化理解にもっと大切な、他者を受け入れて、協力する姿勢を培うための活動中心でした。

参加者での交流が中心で、他校の生徒とも交流できたのでとても新鮮で有意義な時間でした。講演での、「相槌は日本特有の文化」という言葉も確かになと思います、聞き手が頑張る相手の意見を受容しようとするのは日本の文化の良い所だと思いました。

また、参加者のみんなを世界の縮図と考えて行ったゲームでは、日本では当たり前前にできていることが、世界を視点に見るとかなり少数派なんだともわかったり、色々興味深かったです。同時に、グローバル社会を楽しむ生き抜くために



は、英語を話せるようになることだけにとらわれず、最後のジェスチャーゲームで識字率の低い国での意思疎通の難しさを体感したように、当事者の立場になってどうすれば良いのかを考える力も必要になってくると感じました。 出口 健太

今回の近畿ブロック高校生国際交流セミナーを経験して、他人事のように考えていた国際的な問題を身近に感じることの重要性を学んだ。その点で最も印象に残ったのは「世界がもし100人の村だったら」という本を参考にしたワークショップである。言語、主食、宗教、大人と子供の割合などを参加者に割り当てながら見える化することで、世界で今起こっている問題を身近に捉えてみるというものであった。その中でも印象に残っている問題は水道から綺麗な飲み水を得られる人は13人、安全な水を得るために重労働を強いられている人が80人、きれいな水を得られない人が7人だということである。我々の普通が10人という少数派にいることを忘れてはいけないと改めて感じる機会だった。他にも、在日外国人のニシヤンタさ



んの講演では  
日本文化と外  
国文化の違い  
を自身の体験  
を踏まえて分  
かりやすく説  
明していただ  
いた。こうし  
た小さな文化  
の相違が国際  
問題を生むの  
だと考えさせ

られた。今回学んだ国際的な課題に  
対し、これからさらに興味深く調べ  
ていきたいと思う。 吉村 晃

僕が国際交流セミナーで一番心に  
残ったのは、にしゃんた先生の話で  
ある。にしゃんた先生は、外国人と  
の共生について話をしてくださった。  
このとき実際の街の体験の話が入っ  
ており、実に理解しやすいと感じた。  
また、にしゃんた先生は、自身の体  
験などを元に面白く興味深い話をし  
てくださった。そのおかげで全体的  
に頭に残りやすかった。外国の方と  
の共生のためにはお互いに認め合う  
ということが大切だと分かった。お  
互いに分かりあうためには僕は対

話を重ねることが一番大切であると  
考えた。そして、にしゃんた先生が  
日本へ始めてきた日のことが一番興  
味深いと感じた。僕が当たり前のよ  
うにしている、「うなずき」という行  
為は外国の方からすると珍しく、日  
本独自の文化であるということをも  
認識させられた。そして、にしゃん  
た先生が日本語は、うなずきありき  
の言語であるとおっしゃっていた。  
やはり日本の文化などになじみがな  
いからこそ、自国にはない他国の特  
徴がつかめるのだと感じた。

そして僕はチームで協力し、スト  
ローのタワーを作った。最初は、あ  
まり安定せず、チーム内で悩んでい

たが、話し合い  
と改善を繰り返



し、最終的にはこのストローのタワ  
ーを自立させることに成功した。  
これらの事から僕はこれから一番  
大切なのは「協力」であると考えた。  
ストロータワーでも数人で協力して、  
ようやく自立したてることができた。  
そして、にしゃんた先生も協力につ  
いて話されていた。その協力のため  
が大切であると感じた。

稲葉 陽祐

今回の近畿ブロック高校生国際セ  
ミナーを通して僕は様々な国際問題  
や、違う考えを持った人との交流に  
ついて学ぶことができた。

一番印象に残っているのがワー  
クシヨップでの「世界がもし100  
人の村だったら」と言う本の話だ。  
このワークシヨップでは実際に自分  
が100人村の村人になってみる事  
で言語、人種、宗教、貧富の差など  
国際的な問題について目で見えるよ  
う分かりやすく学ぶことができた。  
その中でも印象的だったのが世界の  
貧富の差問題だ。100人村での貧  
富の差は富裕層、普通層、貧困層に  
分けられており、富を飽で表してい  
たが富裕層は一人10個程、普通層

は一人1個、貧困層は全体で1個と  
その差は一目瞭然であった。日本は  
国として栄えている方なのでそこま  
で貧富について意識して考えたこと  
はなかったがこれほど国と国で差が  
あり、どうすれば良いかを考える良  
い経験ができた。

他にも、にしゃんた先生の異文化  
の問題の話や色々な府県の生徒との  
交流など沢山のことを経験すること  
ができた。今後もこの国際問題につ  
いての知識をもっと深めていき、何  
かに活かせるようにしていきたいと  
思う。 岡 佳亮

